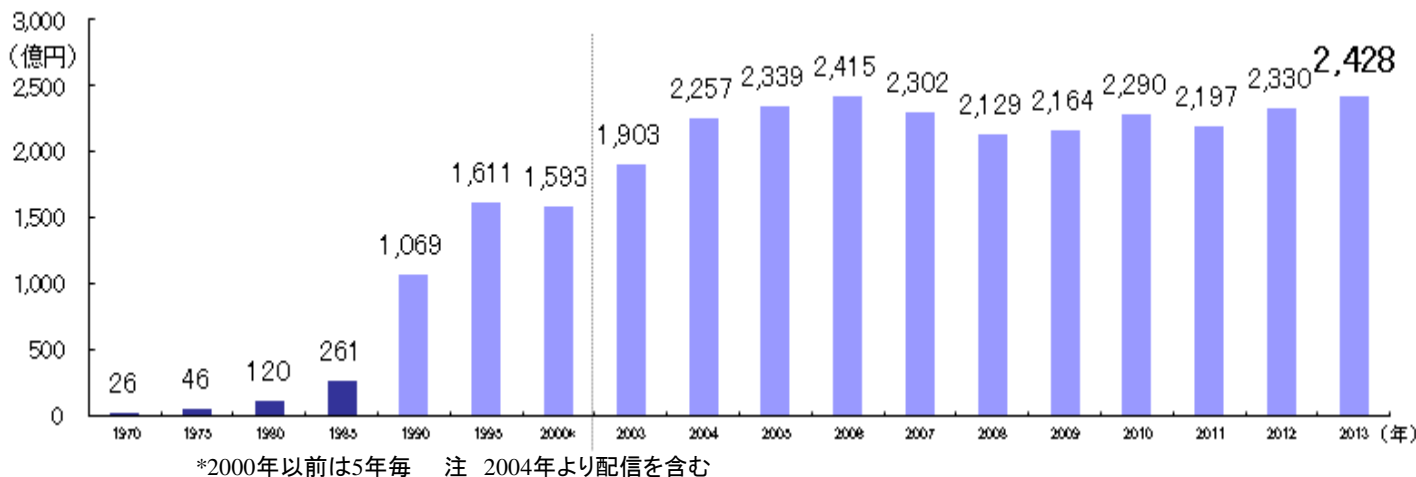


2013年のアニメ市場は2500億円に迫る勢い

◆アニメーション市場規模の推移<1970-2013年>



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2013年(暦年)のアニメーション市場規模(ユーザー支出額)は、特に劇映画市場が大きく増加したことにより、合計2428億円(前年比104.2%)と伸長しました。

劇映画市場は邦画部門、洋画部門ともにヒット作が登場したことに加え、定番となったシリーズ作品の興行収入が安定したため、大きく成長しました。特に洋画市場は「モンスターズ・ユニバーシティ」などフルCGアニメーションが市場に受け入れられ始めた影響もあり、前年から約3.2倍に拡大し、市場を牽引しました。

テレビアニメは、前年比微減となっています。地上波放送は放送本数が微減しており、横ばいとなっています。衛星・CATVは市場全体が縮小傾向にあり減少しました。

ビデオソフト市場はブルーレイへの移行が加速し、DVDの売上を2倍以上上回ったため、7年ぶりに市場が回復しました。しかし、レンタル向けの市場は単価の低下や映像配信コンテンツが増えた影響もあり、減少しました。

配信市場は大きく伸長しています。通信環境が整備され、映像コンテンツの視聴に必要な安定した大容量通信が利用できるようになりました。また、配信コンテンツやサービスの充実に加え、スマートフォンやタブレットの画面が拡大傾向にあることもあり、今後も大きく成長することが見込まれます。一方フィーチャーフォン向け市場は大きく減少しています。

2014年は、7月時点で興行収入250億円を記録した「アナと雪の女王」の影響などがあり、映画市場が大きく伸長すると予想されます。また、配信市場も国内に向けたコンテンツの充実やサービスの多様化が進み、今後も順調に拡大すると予想されます。

<市場の範囲>

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、スマートフォン・フィーチャーフォン向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

<本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社 メディア開発総研 担当:柳川、近藤 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡を願います。